MaslovとRassudovaのロシア語アスペクト論

堤　　正　典

1．はじめに

O. P. ラスードヴァの著書（Rassudova 1968, 1982）は今日でもロシア語学とロシア語教育において意義を失ってはいない。ラスードヴァの研究はJu. S. マスロフの研究（例えばMaslov 1959）に基づくものである。ラスードヴァのロシア語アスペクトの研究はマスロフとラスードヴァのアスペクト論としてまとめて考えるべきである。

本稿ではマスロフとラスードヴァによるロシア語アスペクト論を、私見による若干の解説をくわえながら概観する。また、アスペクト論としてのマスロフ-ラスードヴァ説の問題点を指摘し、今後のロシア語アスペクト研究の方向について述べる。

2．ロシア語アスペクト概説

ここではRassudova（1982)がMaslov(1959）から引いた完了体・不完了体それぞれの主要な用法を中心にロシア語のアスペクトを概観する[1)]。ここに挙げた一部の例には原典からのものでないものもある。

2.1　不完了体の主要な用法

不完了体の用法として、つぎの３つが挙げられている[2)]。

(1)　a.　具体的過程の意味 concrete-processual meaning

［語義により制約あり］

Я　долго читал журнал.
Ja　dolgo　chital [ip]　zhurnal.
私が　長いこと　読んだ［不完］　雑誌を
「私は長いこと雑誌を読んでいた。」

b. 不定回数の意味 indefinite-iterative meaning

Каждый день я читаю журналы.
Kazhdyj den' ja chitaju [ip] zhurnaly.
毎日 私が 読む [不完] 雑誌を
「毎日私は雑誌を読んでいる。」

c. 一般的事実の意味 general-factual meaning
[語形により制約あり]

Однажды я читал журнал.
Odnazhdy ja chital [ip] zhurnal.
かって 私が 読んだ [不完] 雑誌を
「かって私は（この）雑誌を読んだ（ことがある）。」

（1a）の「具体的過程の意味」は動詞の表す状況が過程の中にあることを表す。実行中、進行中であることを表すわけである。この意味には語義により出現に制限がある。語義に過程の意味を含まないもの、すなわち瞬間的に達成されるもの（あるいは変化のみを表すもの）はこの用法で用いられることはない。例えば、приходить（prixodit' 到着する）のような不完了体動詞である。

（1b）の「不定回数の意味」は動作が不定の回数繰り返されることを表す。私見では、習慣として繰り返される動作であると考える。

（1c）の「一般的事実の意味」は事実の発生があることを表す。この用法は語形によって制限があるとされる。また、過去形で用いるのが最も一般的とされる。私見では、この用法は不完了体の三用法のなかで最も中立的なもので、他の用法はそれぞれに適切な特定のコンテキストにおいてそのように解釈されるものと考える。

2.2 完了体の主要な用法

(2) a. 具体的事実の意味 concrete-factual meaning
【一回動作の完成】

Он прочитал книгу.
On prochital [p] knigu.
彼が 読んだ [完] 本を
「彼は（その）本を読んだ（読み終えた）。」

b.　一括化の意味　aggregate meaning［語義により制約あり］
Он несколько раз повторил мне свой вопрос.
On　neskol'ko raz povtoril [p]　mne svoj　vopros.
彼が 何度か　繰り返した［完］私に 自分の 質問を
「彼は私に何度か（その場で立て続けに）自分の質問を繰り返した。」

c.　例示的意味　grapfic-exemplary meaning
［語形により制約あり］
Я всегда повторю вам своё объяснение.
Ja　vsegda povtorju [p] vam　svojo　ob"jasnenie.
私が いつも 繰り返す［完］あなたに 自分の 説明を
「私はいつでもあなたに自分の説明を繰り返してあげられる。」

（2a）の「具体的事実の意味」はある一回の完成した動作である。過去形の場合は、しばしば発話時にその完成した動作の結果が関与する（結果残存）。この例では特定の時に特定の場所で一回その本が読破され、その結果として、例えばその本を他人に貸すことができる状態にあることを表す。

（2b）の「一括化の意味」では動作そのものは繰り返されている。ただし、その場で立て続けに行われたものである。この用法には語義において制限があり、繰り返しを語義に含むような語などに限られる。

（2c）の「例示的意味」は語形に制限があり、完了体の未来形と不定形においてあらわれる。この意味は潜在的に可能な動作を表し、実質的に繰り返され得るものとして表現される。

完了体の三つの用法のうち、「具体的事実の意味」が基本的なものとされる。

2.3　動作の「回数」と「完成／過程」

完了体の基本的な用法とされる「具体的事実の意味」と不完了体の三つの用法（特に「具体的過程の意味」と「一般的事実の意味」）との違いについてもう少し詳しくみることにする。

まず、それぞれの用法における動作の回数とその動作が完成された動作か過程中のものであるかを(3)に示す。

(3)

	完了体	不完了体		
	具体的事実	具体的過程	不定回数	一般的事実
回　　数	一　回	一　回	不　定	少なくとも一回
完成・過程	完　成	過　程	／	／

完了体の「具体的事実の意味」は一回の完成された動作である。それに対し、不完了体は、「具体的過程の意味」は一回の過程中の動作であり、「不定回数の意味」は回数は不定であり、「一般的事実の意味」は少なくとも一回行われた動作を表す。私見では後の二者については完成されたものであるか、過程中のものであるかの違いは主要な特徴ではないと考える（不定回数の意味の場合は繰り返される動作の一つ一つは完成されたものとなるばずである）。

2.4 「具体的過程の意味」と「具体的事実の意味」

不完了体の「具体的過程の意味」と完了体の「具体的事実の意味」の違いを取り上げる。(4) は語義は同じで体のみが異なる動詞（体のペア）の例である。(4a) は不完了体の例で、過去形で、午前中「問題を解く」過程の中にあったことを表す。(4b) は過去形で「問題を解く」動作が完成したことを表している。

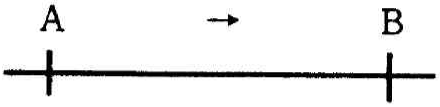
(4)　a.　Я решал задачу всё утро.
　　Ja　reshal [ip]　zadachu　vsjo utro.
　　私が 解いた [不完] 問題を　午前中ずっと
　　「私は午前中ずっと問題を解いていた。」

　　b.　Наконец я решил задачу.
　　Nakonets　ja　reshil [p]　zadachu.
　　とうとう　私が 解いた [完] 問題を
　　「とうとう私は問題を解いた。」

私見ではこれらの違いは(5)の図を用いて示すことができると考える。時点Aから時点Bの方向に時間が進むものとして、Aをなんらかの動作の開始点、Bをその完成点（終了点）とする。不完了体の「具体的過程の意味」は時点Bを含まない過程ABの中に表現される状況があることを意味する。

一方、完了体の「具体的事実の意味」は時点Bへの到達を意味するのである。

(5)



(4)の例で言えば、時点Aが「問題を解き始めたとき」であり、時点Bが「問題を解き終えて解答を出したとき」である。(4a) は「問題を解き始めた」時点Aから「問題を解き終えて解答を出したとき」に向かっている最中であることを表し、(4b) は「問題を解き終えて解答を出した」時点Bに到達したことを表す[3]。

次の(6)も体のペアの例で、(6a) は不完了体過去形で、夏の間「休養を取る」過程にあったことを表し、(6b) は完了体過去形で「休養を取る」ことが完成し、その結果として現在ではリフレッシュした状態にあることを意味する。

(6)　a.　Летом я отдыхал на юге.
　　Letom ja　otdyxal [ip]　　na juge.
　　夏に　私が 休養を取った [不完]　南部で
　　「夏に私は南部で休養を取っていた。」
　　b.　Вы хорошо отдохнули?
　　Vy　xorosho　otdoxnuli [p] ?
　　あなたが よく　休養を取った [完]
　　「あなたは十分休養を取ったか。」

2.5 「一般的事実の意味」と「具体的過程の意味」

不完了体の「一般的事実の意味」と完了体の「具体的事実の意味」について具体例をみる。この二つの用法はロシア語学習者にとって使い分けの困難なものである。これらの使い分けには、細かいいくつかの条件が関与している。

2.5.1 動作の完成

(7)は動詞の不完了体と完了体とでのみ異なる文である。

(7) a. Вы читали эту книгу?
Vy chitali [ip] etu knigu?
あなたが 読んだ [不完] この本を
「あなたはこの本を読んだ（ことがある）か。」

b. Вы прочитали эту книгу?
Vy prochitali [p] etu knigu?
あなたが 読んだ [完] この本を
「あなたはこの本を読んだ／読み終わったか。」

(7a) は不完了体過去形で、過去に「この本を読んだ」という事実があるかどうかを尋ねている。(7b) は完了体過去形で、「この本を読んだ」事実のみではなく、最後まで読み終えたのかどうか、あるいは読み終えてその結果として現在新しい状況（例えば、その本を他の人に貸すことができる状況）にあるのかどうかを尋ねている。

不完了体の「一般的事実の意味」が事実の発生（存在）を表すのは、(8a) の文が (8b) のように存在文に言い換えられることからも明らかである。

(8) a. Мы сдавали экзамен вчера.
My sdavali [ip] ekzamen vchera.
私たち 受けた [不完] 試験を 昨日
「私たちは昨日試験を受けた。」

b. У нас был экзамен вчера.
U nas byl ekzamen vchera.
私たちのところで あった 試験が 昨日
「私たちは昨日試験があった。」

c. Мы сдали экзамен.
My sdali [p] ekzamen.
私たちが 受けた [完] 試験を
「私たちは試験に合格した。」

なお、完了体過去形の (8c) は「試験を受けた」ことのみではなく、その動作の完成として「試験に合格する」ことを意味している。

2.5.2　前　提

完了体で疑問文を発する場合、動作がすでに開始されていることを話者が前提としている。先の（7b）も「読み始めている」ことを前提としているため、「読み終えた」かどうか尋ねていると考えられる。

さらに、実際に開始したことのみではなく、その動作をするつもりであったことを前提としている場合に完了体が用いられる。（9b）では話者は聞き手が「映画をみるつもりであった」ことを前提としている。

(9)　a.　Вы смотрели этот фильм?
　　Vy　smotreli [ip]　etot fil'm?
　　あなたが 見た [不完]　この映画
　　「あなたはこの映画を見ましたか。」
　　b.　Вы посмотрели этот фильм?
　　Vy　posmotreli [p]　etot fil'm?
　　あなたが 見た [完]　この映画を
　　「あなたはこの映画を見ましたか（見るつもりでしたね）。」

次の例は浅野（1996）で報告されたものである。ロシア留学中に大学のカフェで注文をすませて、待っていたとき、（10a）の不完了体過去形でウェイトレスに尋ねられた。ウェイトレスは注文もせずにたむろしているものを追い出したかったらしい。これも同様に解釈される。すなわち、（10b）のように完了体を用いたのでは、「注文するつもりがあった」ことを前提として尋ねることになり、注文するつもりがない人を見つけるためにはそぐわないのである。

(10)　a.　Вы заказывали?
　　Vy　zakazyvali [ip] ?
　　あなたが　注文した [不完]
　　「あなたたちは注文したか。」
　　b.　Вы заказали?
　　Vy　zakazali [p] ?
　　あなたが　注文した [完]
　　「あなたたちは注文し（終え）たか。」

2.5.3 否　定

動詞を否定した場合、不完了体と完了体とで次のような違いがある。(11a) は不完了体過去形が否定され、「問題を解く」という動作そのものが存在しなかったことを表す。(11b) は完了体過去形の否定で、「問題の解答を出す」という動作の完成が否定されている。これは(5)の図で考えると、不完了体の否定は過程ABが存在しないことを表すのに対し、完了体は時点Bへの到達が存在しないことを表している。

(11)　a.　Я не решал задачу.
　　Ja　ne　reshal [ip]　zadachu.
　　私が ない 解いた [不完]　問題を
　　「私は問題を（まったく）解いていない。」

　　b.　Я не решил задачу.
　　Ja　ne　reshil [p]　zadachu.
　　私が ない 解いた [完]　問題を
　　「私は問題を解いていない（解き終えてない）。」

2.5.4 結果残存と結果消滅

完了体（過去形）が結果の残存を表すのに対し、不完了体が結果の消滅を表すことがある。(12a) は不完了体過去形で窓は現在閉まっている場合用いられる。これに対し、(12b) の完了体の場合、窓が現在開いていて、(12a) とは異なった状況を表している。

(12)　a.　Кто-то открывал окно.
　　Kto-to　otkryval [ip]　okno.
　　誰かが　開けた [不完]　窓を
　　「誰かが窓を開けた（今は閉まっている）。」

　　b.　Кто-то открыл окно.
　　Kto-to　otkryl [p]　okno.
　　誰かが　開けた [完]　窓を
　　「誰かが窓を開けた（今も開いている）。」

このような結果の消滅を表しうるのはどの不完了体動詞でも可能であるわけではなく、語義において制限される。これが可能なのは生じた結果が元の状態に戻る（または戻す）ことができる動作を表す動詞である。開けたものは閉めれば元の閉まっている状態に戻る。借りたものは返すと元の場所に存在することになる。このような意味を表す動詞に限られるのである。

2.5.5　動作の結果への関心と動作の過程への関心

同じ過去の出来事についてその動作主を尋ねる場合でも(13)のように二通りが成り立ちうる。どちらも「掃除されていて、部屋がきれいになっている」状況に現在はある。(13a) は不完了体過去形で、結果よりも過去の動作の過程に興味がある場合である。例えば、置いてあった物がないというようなときが想定される。(13b) は結果に注目している場合である。

(13)　a.　Кто убирал комнату?
　　Kto　ubiral [ip]　komnatu?
　　誰が　掃除した［不完］　部屋を
　　「誰が部屋を掃除したのか（置いてあった物がない）。」
　　b.　Кто убрал комнату?
　　Kto　ubral [p]　komnatu?
　　誰が　掃除した［完］　部屋を
　　「誰が部屋を掃除したのか（きれいになっている）。」

3．問　題　点

以上、ロシア語のアスペクトをマスロフ-ラスードヴァの研究に一部私見をまじえて概観してきた。この稿を締めくくるにあたって、マスロフ-ラスードヴァのアスペクト論について、若干の問題点を指摘しておきたい。

何よりも問題となるのは、用語における簡潔さの欠如である。例えば、(1)と(2)に挙げた体の主要な用法の違いが用語をみただけでは理解しがたい。また、マスロフもラスードヴァも完了体の一般的な意味として「全一性の明言」、それに対する不完了体は「全一性の明言の欠如」を主張しているが、「全一性」と(1)や(2)の用法との関係も用語の上からは関係が明らかではない。もちろん、ロシア語のアスペクトは複雑な現象であるから、そう

簡潔にはならないとも主張できるかもしれない。しかし、簡潔性をめざすことは研究上の重要な課題のひとつであるとしてよい。特にロシア語教育をも視野に入れるのであればなおのことである。

このことは単に用語の問題だけに関わるものではないのかもしれない。提唱されている体の一般的な意味はマスロフやラスードヴァが支持する「全一性」によるものの他にもいくつも存在する。例えば、シャトゥノフスキー（Shatunovskij 1993）は完了体が「複数の状況」を表すとし、不完了体は「単一の状況」を表すとしている。このような見解もふまえた上で、ロシア語のアスペクトのより合理的で簡潔な捉え方を追求することが必要である。

マスロフやラスードヴァの研究により、ロシア語のアスペクトの様々な側面がすでに明らかになっている。これをより明確な全体へとまとめ上げる研究が求められている。

本稿は、1999年10月16日に行われた神奈川大学対照言語研究会において、筆者が報告したものを発展させたものである。ご質問・コメントをいただいた先生方・大学院生の皆さんに感謝申し上げる。

注

1）本稿では日本のロシア語学・スラヴ語学で伝統的な「完了体・不完了体」の用語を用いる。それぞれComrie（1976）などでのperfective aspect, imperfective aspectと読み替えてもよい。例文にそえた［不完］または［ip］は不完了体を表し、［完］または［p］は完了体を表す。本稿での「動作」という用語はRassudova（1982）での‘действие’がそうであるように、本来よりも広い意味で用いている。

2）参考のため各用法の英語の名称も添えておく。これは英訳版のものである。なお、ロシア語では順にконкретно-процессное значение, неограниченно-кратное значение, обще фактическое значение(以上不完了体), конкретно-фактическое значение, суммарное значение, наглядно-примерное значение（以上完了体）である。

3）先に述べた「具体的過程の意味」で用いられない動詞とは語義に過程の意味を含まないものとしたが、(5)の図で言うと、時点Aと時点Bの間がなく、二つの時点が重なっているものと考えられる。

参照文献

Comrie, Bernard. (1976). *Aspect*. Cambridge: Cambridge University Press.

Maslov, Ju. S.(1959). "Glagol'nyj vid v sovremennom bolgarskom literaturnom jazyke (znachenie i upotreblenie)." In S. B. Bernshtejn (ed.), *Voprosy grammatiki bolgarskogo literaturnogo jazyka*. 157-312. Moscow: Izdatel'stvo Akademii nauk SSSR.

Rassudova, O. P. (1968). *Upotreblenie vidov glagola v russkom* jazyke. Moscow: Izdatel'stvo Moskovskogo universiteta. 磯谷孝訳編『ロシア語動詞　体の用法』吾妻書房, 1975.

——— .(1982). *Upotreblenie vidov glagola v sovermennom russkom jazyke*. 2nd ed. Moscow: Izdatel'stvo 《Russkij jazyk》. Translated by Gregory M. Eramian. *Aspectual Usage in Modern Russian*. Moscow: Izdatel'stvo 《Russkij jazyk》, 1984.

Shatunovskij, I. B. (1993). "Semantika vida: k probleme invarianta." In Ju. N. Karaulov (ed.), *Rusistika segodnja. Funkcionirovanie jazyka: leksika i grammatika*. 55-70. Moscow:Nauka.

浅野　図夢.(1996).「完了体と不完了体について」JICインフォメーション第74号, 12-3. JIC国際親善交流センター.